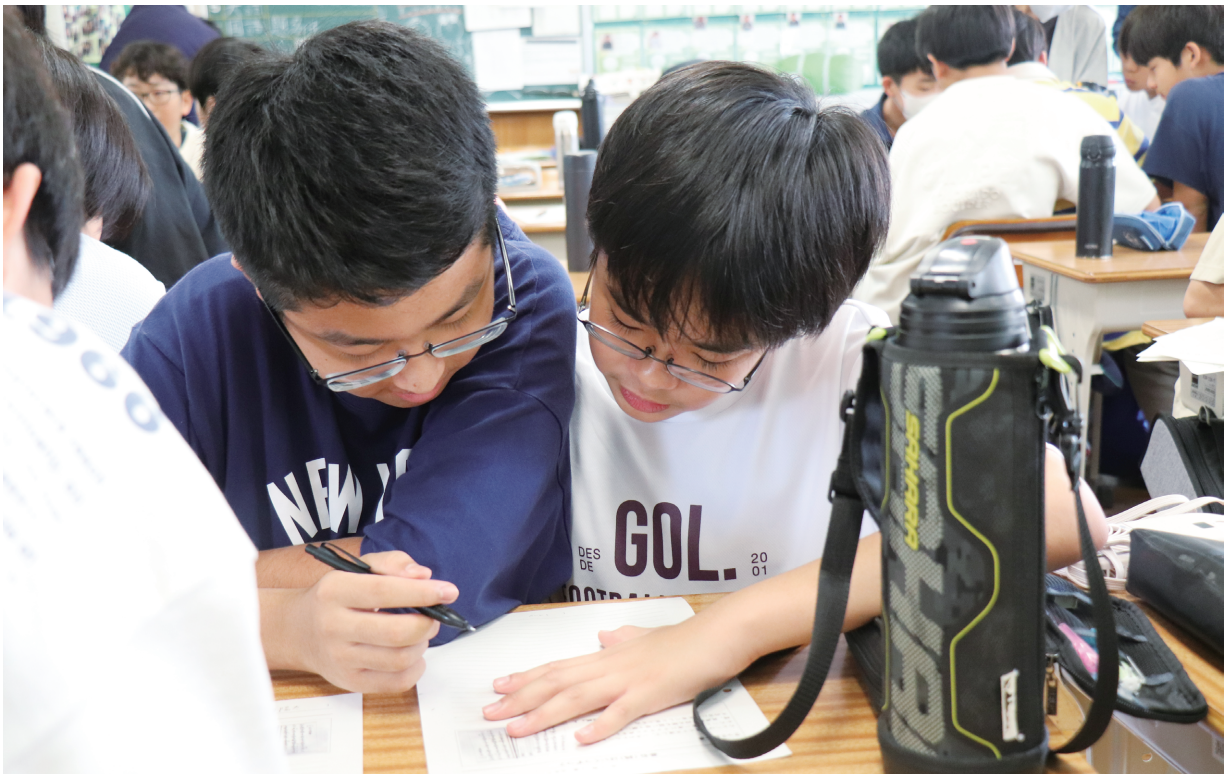
静岡大学教育学部附属静岡中学校
令和８年度　教育研究協議会のご案内

学びをひらく契機 ーわかろうとする子どもー



研修部長　若林　卓

ふと見上げた夜空に名月が浮かんでいて、少し立ち止まって風を感じたくなったのなら、それはもう秋なのかもしれない。

誰もいないリビングで原稿を書いていたら、突然、鳴るスマホ。友人から届いたメッセージに返信したついでに、ネットショッピングのサイトを開く。おすすめ商品が次々に表示され、無意識に指先を動かし、見たいわけでもないショート動画が次から次へと流し出される。気づけば数十分。まだやらなくてはいけない仕事があるからと、夕食は簡単に済ませ、その時間をも惜しむように、観たかったドラマをタブレットで再生する。それも倍速で。つまらないところはスキップで。食後は、スマホでスポーツの試合の勝敗結果を確認しながら、片付けは食洗機に任せてしまう、そんな夜。

気づけばわたしたちは、時間をかけずに満足を得たり、簡単にメリットを得たり、難しいことや煩わしいことがないようにお膳立てされた生活が当たり前になっているのかもしれない。

『誰でもうまくいく仕事術』『絶対にやる気が出る十箇条』―そんなタイトルのハウツー本が平積みされ、
『本要約チャンネル』『名作映画を 10 分で理解』―そんなタイトルの動画が溢れかえっている。

体験でなく、消費。
鑑賞でなく、消費。
味わうのでなく、消費。
「わかろうとする」のではなく、消費。

そうやって、消費することの満足感に支配されていくわたしたち。それにより、「満足に至るまで時間がかかるもの」「必ずメリットが得られるとは限らないもの」「遠回りや無駄と思われるもの」、そして「わかりにくいもの」―そういったものは、今の世の中では、〇〇パ（パフォーマンス）が良くないものとして見られ、敬遠される傾向にある。
それゆえ、わたしたちは、「わからないこと」に立ち向かうことから、気づかぬうちに距離を置いているのかもしれない。

では、本校の学びはどうだろう？

▶日　程

8:30	9:00	9:25	9:40	9:55	10:05	10:55	11:15	12:05	13:05	14:25	14:40	16:15
受付	全体会	移動	教科事前	移動	公開授業 第１時	移動	公開授業 第２時	昼食	教科別協議	移動	講　演	

▶公開授業　第１時　10:05～10:55

教科	学級	題　材　名	概　　要	授業者
国語	1年D組	**そうか、そうか、つまり君の読みはそういう……**	本を読むと自分の世界は広がります。読書はその人を広げてくれる営みです。本当は一人でできる営みを、あえて複数人で読む。その過程で子どもは何を見いだしているのか、少年の日の思い出とともに探ってみます。	三島　将弘
社会	1年A組	**社会は何からつくられる？** ―オーストラリアの社会から考える―	42年ぶりに日本人の人口が１億2000万人を下回る。その中で外国人の人口は約403万人と過去最多。これからの日本は……。オーストラリアの多文化社会の姿を見ながら、「社会」について、子どもたちと考えていきます。	菅原　晃
数学	3年B組	**Professional** ―彼女の流儀―	何気なく見ていたあの光景が、数学の題材になりました。有名な彼女の、あのシーンを数学化して考えると、彼女のすごさが際立って映ります。実験する条件をそろえると、どのような効果があると思いますか。	勝又　俊
理科	3年C組	**唆るぜ、これは！** ―この電池はなんだ？―	私たちの身の回りにはたくさんの科学であふれています。私たちは科学者たちの知恵の結晶で豊かな生活を送ることができています。この授業のあと、家電量販店に向かうと、見える世界が変わるかもしれません。	加藤　理道
保体	2年B組	**どうすれば誰もが楽しめるベースボール型のゲームができる？**	みなさんはベースボール型のスポーツにどんなイメージがありますか。「打つ・投げる・捕る動作が難しい。ルールが複雑。だから自分には合わない。」本授業では、そんな障壁を取っ払い、魅力や楽しさを思う存分味わう子どもの姿をめざします。	榛葉龍太郎
英語	2年C組	**Connect with the World**	“When you feel stressed or worried, what do you do?”……日常の中に不安や困り感を抱えているアメリカ人から届いたビデオレター。自分のアイディアで世界の人々の日常に小さな変化をもたらすことができるだろうか。	小野　瑞歩

研究主題

学びをひらく契機 ―わかろうとする子ども―

期　日　令和８年 10 月 30 日（金）
会　場　静岡大学教育学部附属静岡中学校
講演会　「わかろうとする子どもたちの多様性をいかして」
講　師　青山学院大学教育人間科学部教育学科
　　教授　益　川　弘　如　先生
主　催　静岡大学教育学部附属静岡中学校
後　援　静岡県教育委員会・静岡市教育委員会


益川　弘如 先生

▶公開授業　第２時　11:15～12:05

教科	学級	題　材　名	概　　要	授業者
国語	3年D組	**ことばの　ふるさと**	普段、何気なく使っている言葉。うれしい気持ちや大切な思いは、どのように届いていくのでしょう。谷川俊太郎の詩を味わいながら、言葉と向き合い、自分らしい表現を探します。	井上　由貴
社会	3年A組	**個人の生き方を尊重する社会** ―選択的夫婦別姓制度から「政治」を見つめる―	価値観が多様化する社会において、私たち個人の生き方や意思決定は、法によってどこまで尊重されうるのか。政治はそれができているのか。選択的夫婦別姓の議論から、社会の本質的な部分に目を向けていくことを願っています。	黒柳　友義
数学	2年D組	**「暑さ」ってなんだろう？**	学校生活の当たり前の光景には、どのような数学が潜んでいるのだろうか。日頃の悩みを解決するため、必要な情報の種類や量を吟味しながら、練り上げる子どもの姿をご覧ください。	齋藤　慶一
音楽	1年B組	**音のない時間にも、表現はある？**	箏のたった一音が、思考を動かす。「間」から問いを生み出すことはできるのか？	清水　美奈
美術	2年A組（1年A組）	**鑑賞会をプロデュース** ―知識がなくても楽しく鑑賞できる!?― 後輩たちに贈る鑑賞会	「先生、この作品は調べても何も出てこないので、わかりません」その一言からうまれた授業。「正解」ではなく「自分なりの価値」を創り出す鑑賞の授業へ。子どもたちがプロデュースする鑑賞会をご覧ください。 ※この授業は、校外に出て周辺の彫刻を鑑賞します。	望月　理恵
保体	1年C組	**「ナイスパス」ってなんだろう**	私たちは、保健体育科の授業で「何」を育てているのでしょうか。アルティメットを切り口に、自分を見つめ、仲間とかかわり、豊かな人格形成を目指します。「本物」との出会いを通し、子どもたちが「ナイスパス」について追求する姿をぜひご覧ください。	勝又　陽一

〈申込方法〉
- 参加ご希望の方は右の二次元コードを読みとり、Google Formに必要事項を入力の上、お申し込みください。申し込み期限は10月22日(木) になりますが、申込状況によっては、期限前に締め切ることもありますのでご了承願います。
- 事前連絡のない当日のご参加はご遠慮ください。

〈参加費〉 無料

〈昼　食〉 弁当の販売は行いません。各自でご持参ください。

〈協議会前後の授業公開について〉
- 協議会の前後２週間の授業参観を受けつけております。当日の参加が叶わない方も含めて、協議会前後の授業のようすをご覧になりたい方は本校研修部(osizuchu@shizuoka.ac.jp)までお問い合わせください。

〈その他〉
- 駐車場はございません。近隣の有料駐車場をご利用いただくか、公共交通機関をご利用ください。
- 今後の状況によって、開催方法等が変更になることがあります。その際は本校ホームページや、お申し込み時に登録いただいたメールでお知らせいたします。



立ち止まって見つめる

校長　酒井　宣幸

「今日の授業、Ａさんの発言から、議論が活発になってですね･･･」「前回の追求（授業のリフレクション）で深く考えをめぐらせていたＢさんに、なんとかスポットを当てようとしたのですが･･･」。本校の先生方は、とても深く子どもたちの思いや考えを受け止め、子どもたちが主体となって教科の本質に迫る授業を展開しようと試行錯誤しています。みなさんも、それぞれの現場で、子どもが主役となり熱心に探究していく授業を行いたいと日々奮闘していらっしゃることと思います。

「灯台もと暗し」「岡目八目」「他人の正目」…。みなさんもご存じの通り、これらの言葉は“近くの物は、近すぎてかえって見えない”“当事者よりも少し離れた者の方がよく物事が見えている”といった意味のことわざですね。離れているからこそ、そのよさがわかるという意味では、「ふるさとは、遠きにありて思うもの」なども、似た言葉といえるかもしれません。

明治の初め、「外国のものが優れ、日本固有の文化は全て価値なし」と考えられた時代がありました。そんなとき、フランスへ陶器を輸出することに。陶器が破損しないように、その詰め物に当時紙くず同然であった古い浮世絵を丸めて入れることにしました。買い入れたフランス側はびっくり。陶器でなく詰め物にされていた浮世絵に強い衝撃を受けたのだそうです。ヨーロッパの人が全く知らない美の世界。荷物そっちのけで、遥か遠くの地で浮世絵が大評判になりました。

当事者がもつ「主観的な視点」と少し離れた者の「客観的な視点」。どちらが優れているとか正しいということではなく、主観的思考が中心の現代、立ち止まって客観的に物事を見る機会がとても大切だと感じています。教職員は、子どもたちの健やかな成長のためにと、日々一生懸命です。しかし、当事者であるが故に、見えていないこともあるでしょう。授業実践では、授業者として没入するが故に子どもの思考をその場でうまく捉えきれないという悩みは、先生方も感じたことがあるのではないでしょうか。

附属静岡中学校では、人間形成に寄与する学びを大切にしながら、本年度、新研究「学びをひらく契機」をスタートさせました。「『学ぶ』とは、どういうことなのか？」「学びが起きている過程で、子どもたちの内面には何が起きているのか？」など、子どもたちの発話や活動等を客観的に探っていこうとする営みが始まっています。

新研究の初年度に当たり、今後の研究をより確かなものにするために、皆様から研究協議会を通して忌憚のない（そして、客観的な視点で）ご意見をいただきたいと願っております。多くの先生方のご参加をよろしくお願いいたします。

► 教科別協議会

研究全体共同研究者	豊島まり絵

教　科	助言者（氏名・所属）	協力委員（氏名・所属）	共同研究者（静岡大学）
国　語	放送大学大学院（静岡大学名誉教授）　坂口　京子	藤枝市立葉梨中学校　池谷　和貴 焼津市立小川中学校　藤ヶ谷夏奈	中村ともえ 細川　太輔
社　会	国立教育政策研究所　磯山　恭子	静岡県立清水南高等学校中等部　漆畑　元基 静岡市立南中学校　藤井　将史	西野　肇　佐藤　正志 漆畑　俊晴
数　学	大阪工業大学　武藤　寿彰	裾野市立東中学校　小澤　俊晃 静岡市立清水飯田小学校　木内　治輝	峰野　宏祐
理　科	国立教育政策研究所　小林　一人	富士市立大淵中学校　横島　翔	郡司　賀透　新鶴田道也 坂部　将仁
音　楽	静西教育事務所　増田　真弓	島田市立島田第二中学校　兵庫　廣多	東屋敷尚子 服部　慶子
美　術	静岡市教育センター　池田しのぶ	静岡市立清水第六中学校　杉浦　弥生	芳賀　正之 川原崎知洋
保健体育	静岡市立賤機中学校　大城健太郎	静岡市立東中学校　中村　圭佑 御殿場市立原里中学校　勝野由志雄	野津　一浩
英　語	国立教育政策研究所　佐藤　大樹	富士市立元吉原中学校　稲垣　研人 藤枝市立青島北中学校　杉山　寛陽	矢野　淳 大瀧　綾乃

※敬称は省略させていただきました。

静岡大学教育学部 附属静岡中学校

〒420-0856　静岡県静岡市葵区駿府町１番 86 号
TEL　054-255-0137　FAX　054-252-7335
E-mail　osizuchu@shizuoka.ac.jp
URL　https://fzk.ed.shizuoka.ac.jp/shizuchu/

HP には、教育研究協議会のお知らせや、日頃の授業のようすなどを掲載しています。ぜひ、ご覧ください。